顧客を守る！ | ▶顧客の生活を支える | レジリエンスに特化した商品やサービスをつくる

019 糖尿病患者向けの災害時支援アプリの開発

取組主体		
国立大学法人佐賀大学		
従業員数	想定災害	実施地域
2,788 人	地震等	佐賀県

- 発災時に患者の状況を早期に把握し、優先度に応じた薬剤の提供や援助につなげるため、患者が服用する薬や人工呼吸器の使用有無等の情報を集約するアプリを開発した。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

発災時に糖尿病患者等の状況や場所を把握し、早期の援助につなげる

- 大規模災害時は、全国各地からDMAT（災害派遣医療チーム）が被災地に派遣されるが、災害弱者の状況や場所を把握することが難しく、避難に伴って病状を悪化させる二次的健康被害への対策が課題となっている。
- 佐賀大学医学部附属病院では、体内でインスリンが分泌されないため、注射による頻繁な治療が必要な１型糖尿病患者向けに、患者自らが予めスマートフォンで既往歴、アレルギーやかかりつけ医等の情報を登録し、内服薬の情報も QR コードで簡単に登録できる「災害時患者支援アプリ」を開発した。令和元年 10 月に試作版を公開し、令和２年度中の実用化を目指して改修を進めている。
- 患者の情報は同病院内の災害情報支援センターに集約され、災害時には、GPS を利用して患者の位置情報を把握し、同アプリで集約、データ化した情報に基づきインスリン注射や内服薬を必要とする患者を特定して、早期の援助につなげる。
- また、専門診療各科とのチームによって、注射や服薬ができないことによる危険度に応じて 48 時間以内に注射や服薬を開始すべき薬剤と 7 日以内に注射や服薬を開始すべき薬剤を抽出し、避難所等で患者が必要としている薬剤と同一の薬剤が確保できない場合には、類似の薬剤へ変換（スイッチング）する仕組みを構築し、特許申請に至っている。

・入力初期画面
・薬剤情報取得画面
・QRコードで簡単入力
・災害時入力画面
・薬剤の紛失や位置を送信

災害時患者支援アプリ利用の流れ

2 現状の課題・今後の展開等

- 糖尿病患者のインスリン確保を中心に、患者団体との連携によって取組の構築を進めているが、今後は難病患者支援や高齢者介護等、対象とする連携体制を広げていくほか、アプリを通じた災害対応のモデルを佐賀県で確立させ、全国へ普及させることを目指している。

担当者の声

- 災害が頻発し、若年者の人口比率が減少する社会において、地域の中核医療機関である大学病院が IT 技術を活用した災害時の支援体制を確立することで、住民に安心安全を提供し、地域貢献につながればと考えています。

問合せ先

国立大学法人佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター
TEL：0952-34-3160 FAX：0952-34-1061 E-Mail：kyukyu.saga@gmail.com